

表情豊かに語りかけるFlying House 桜観荘

ヒビの入らない、一発打設のコンクリートでつくったM邸。
2階の一部が宙に浮いたキャンティレバーの構造とデザインが、美しく一体化している。

株式会社高田建築事務所



TAKADA
KENCHIKU
JIMUSHO

春には桜に囲まれる福島江沿い。そんな眺めのいい絶好地にMさんが家を建てたのは25年前のこと。高田建築事務所に依頼したその木造の家の次の家をどうするか、M家では家族会議が開かれたという。「これまで不満もなく住んできたのだから、高田さんがいいということは分かっていた。では、高田さんに頼まない理由はあるか、投げかけたんです」。誰からも、言葉は返ってこなかった。Mさんは思い迷うことなく2軒目も高田建築事務所

に依頼。桜を見るためのゲストルームとアンティーク家具を置く場所を設けること、さらに災害に強い家にしてほしい、と伝えた。設計を担当した高田清太郎社長は、これらの要望と、長い付き合いの中で知り得ていたMさんの本物志向を重ね合わせ、コンクリート打ち放しの家を提案。しかも型枠流し込みではなく、一発打設のRC造だ。「アンティーク家具との相性を考えると古民家が浮かぶけれど、モダンなコンクリートの空間にも合うと思え

た」。直感したMさんは、高田社長のアイデアにすぐ賛成した。ただし、高田社長には一つ引っかかっていたことがあった。それはコンクリートにはヒビが付きものだという点。本物のコンクリートで造りたい。そう思って調べたら、ヒビの入らないコンクリートは可能だと主張している先生がいたんです。そこでその先生を東京から呼んで、Mさんにも声をかけて研究会を始めました」。完成までの長い、長い道のりが始まった。

右頁／はね出し空間(キャンティレバー)が道行く人に表情豊かに語りかけるM邸。スライドすることで生まれた空間を駐車スペースに。2階の大きな開口部は、福島江沿いの桜並木に面している 左頁・上／階段おどり場から玄関ホールを見る。正面にはアンティークのベンチ 下右／8年という時間を感じさせないコンクリートに木とアイアンが調和している階段室。右手の壁は小さくくり抜いて、Mさんが吹く篠笛をディスプレイ 下左／風除室から玄関ホールを見る。正面にはアンティークのチェストにバラを描いた花瓶



Jakada Kenchiku Jimusho

長岡市 M邸 | RC造 | 工期180日 | フリープラン

アンティーク家具が随所に置かれた広いLDK。客間を兼ねていることからテーブルも2つ。庭とフラットにつながる境界線の曖昧な間取り、右手の可動式の格子などに日本的なあしらいが見える

思いと共に引き継がれ、生き続ける住まいに

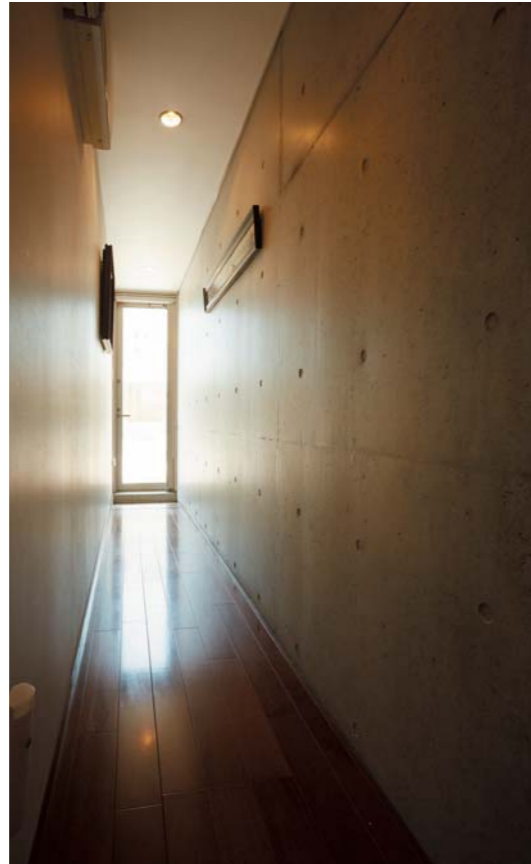
家の前に立つと、コンクリートに縁取られた大きな開口部、その下には柱のない空間。キャンティレバーとよばれるこの構造は、直方体の箱の2階部分をスライドさせ、重ねることで生まれている。「スライドさせることで躍動感を持った空間が生じる。生まれた空間は1階駐車スペースと2階テラスにしました」と高田社長。そしてもう一つ、スライドさせることで生まれたのが「外と内の半透明なつながり」だ。確かに、M邸は至るところで外と内が融け合っている。たとえば駐車スペースは、2階のゲストルームの床を天井とした半屋外の空間。正面の壁、四角く切り取ったフィックス窓から奥さまの生けたバラが見え、室内の気配を伝えている。そして、広いリビングルームの向こうには庭。Mさんの希望で、床面をフラットにつなげたため、庭はまるでリビングの一部だ。

外と内、どちらでもない曖昧な空間といえば、縁側、土間などの日本的な「間」を思い起こすだろう。「RC造でありながら、間のつくり方は日本的」。高田社長の言うように、洋の建築の中に和の要素を入れ込んだM邸は、インテリアにも和洋の折衷が見える。設計からの提案としてはリビングの格子。

そしてMさんが好きで集めてきたイギリスのアンティーク家具と和の小物の組み合わせだ。見れば、ガラスキャビネットの中には江戸切子、リビングのチェストの上には会津塗りの器。大切なのはバランス。今考えても打ち放しは大成功でしたね。Mさんが絶賛するその「コンクリートは、約8年という時間を経ているが、ヒビはまったくなく、表面は依然、鏡面のようにツヤを放っている。専門家から、打つ途中、空気と水を振動で抜き、さらに固めるという時間も手間もかかる方法を伝授し、実践したことでたどり着いたこのクオリティと表情。「コンクリートですが、既に石です」。引き渡しの時、社長から言われた言葉が改めて説得力を持って響いている、とMさんは言った。「ヨーロッパでは何百年も前の家を自慢するじゃないですか。そんな気持ちです。私もこの家を大切に、息子に引き継いでもらいたいと思っています」。人間よりもはるかに長生きする堅固な空間で、これからも家族の思い出が紡がれていく。来年、創立40周年を迎えるという高田建築事務所が、M邸を原点のひとつとして位置付けているのが、よく分かるだろう。

Jakada Kenchiku Jimusho

敷地面積 / 238.29㎡ (72.08坪)
 延床面積 / 255.16㎡ (77.18坪)
 1階面積 / 155.05㎡ (46.90坪)
 2階面積 / 100.11㎡ (30.28坪)
 工 法 / 鉄筋コンクリート
 断 熱 材 / ウレタン吹き付け
 屋 根 材 / コンクリート打放
 外 装 材 / コンクリート打放
 内 装 材 / クロス (一部コンクリート打放)
 床 材 / ウォールナット
 開 口 部 / 断熱サッシ (網入ガラス+Low-Eガラス)
 キッチン / TOYO KITCHEN、造作家具
 竣工年月 / 2007年6月
 家族構成 / 母親+夫婦



株式会社高田建築事務所

〒940-1105 長岡市摂田屋5-6-22
 Tel 0258-36-1230 Fax 0258-35-8185

詳しい企業情報は「ビルダーズスクエア」をご覧ください。



資料請求をして頂いた方先着30名様に
 クオ・カード(500円分)をプレゼント。
 ※詳細は255ページをご覧ください。
 ケータイからも資料請求できます。

右頁・上 / 桜を眺めるためのゲストルーム。その開口部は天井と床いっばいに取られ、眺めは大きく室内に取り込まれている 下右 / 正面はキッチン。白いカウンターと格子の仕切りを造作した
 下左 / リビングの壁は一面だけコンクリート打ち放しに。アンティーク家具との相性もいい 左頁・上右 / 寝室に置かれたデスクや椅子もアンティーク 上左 / 鏡面のようにツヤがあるコン
 クリートの壁 下右 / 2階のテラス 下左 / リビングの窓を開け放つと、庭と室内が一体化する